

# 六所神社の御祭神

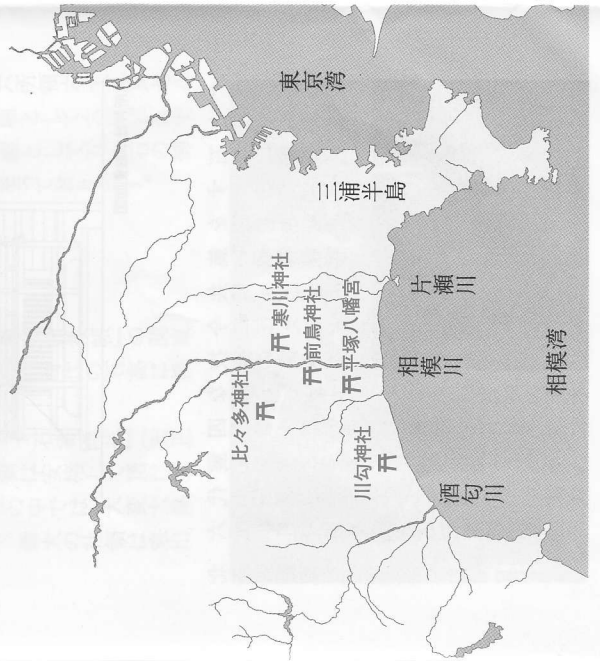
主祭神 櫛稲田姫命

古くは出雲の国から柳田氏族が移住し、当地を開墾した際に櫛稲田姫命を祖神として祀ったのが始まりといわれています。



## 相殿に祀られる相模の神々の御分霊

- 寒川神社(高座郡寒川町宮山鎮座)
- 川勾神社(中郡二宮町山西鎮座)
- 比々多神社(伊勢原市三ノ宮鎮座)
- 前鳥神社(平塚市四之宮鎮座)
- 平塚八幡宮(平塚市浅間町鎮座)



## 御神縁の良縁、女性災禍除に



### 湯津瓜御守り

湯津瓜櫛の由来は、日本神話の中、八岐大蛇退治の条りにあります。  
 六所神社の大神様 櫛稲田姫命様は、出雲国にお生れになり、少女の頃、永年人々を苦しめていた八岐大蛇と言う怪獣に命を狙われ、絶体絶命の時、素戔嗚命様と言う強く荒い神様が救いに現れました。  
 大神様は、自らを本性なる奇魂(周囲に不思議な現象を起す力)に身を代え、強い霊力となり、素戔嗚命様の力となり、みこと八岐大蛇を退治なされました。  
 この奇魂を目に見える形としたのが、湯津瓜櫛です。  
 湯津瓜櫛の御守りは、櫛稲田姫命様の強い霊力が籠る高い神秘力を持つ御守りで、  
 1. この御守りを女性が身に付けると、奇魂の霊力が増し、不慮の災難、事故いやがらせから、身代りとなって守って下されます。  
 2. この御守りを女性が身に付けると、御神縁の良縁の道が開かれます。  
 3. この御守りを女性から困っている男性に真心こめて念じ贈ると、男性に霊力が湧き、困難打開の道が開かれます。  
 4. この御守りを男性から女性に贈ると、「かけがえない大切な女性」の証となります。